

**18**  
2008. 5

# 薬友会報

千葉大学薬友会



医薬系総合研究棟



事前実務実習トライアル：散剤調剤



大学院G.P.（世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成）授業風景：学生による発表

薬友会長挨拶	2	クラス通信	7
理事・副学長就任挨拶	2	支部だより	12
充実した時間を過せたことに感謝しつつ	3	みのはな山岳会・亥鼻会	12
新任教教授挨拶	3	サークル紹介	12
「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」プログラム採択実施	4	学部だより	13
概算要求「For SPECT新規標識プローブの開発による 医薬イノベーションの創出」採択	5	受賞等	13
研究室紹介	6	教員の異動	14
新制度薬学部生の初めての3年次進学振り分けについて	7	博士学位授与一覧	14
小中学生対象 夏休み薬草教室開催	7	薬友会より	15
萩庭標本データベース作成協力会	7	薬友会セミナー	16
		編集後記	16

» 研究院長挨拶

石川 勉



平成20年4月より、母校の薬学研究院長（薬学部長）職の重責を担うことになりました。会員の皆様におかれましては、どうぞ叱咤激励の程よろしくお願ひ申し上げます。

平成18年度の薬学教育改革に伴い、千葉大学薬学部は総合薬品科学科（定員80名）を薬学科（6年制の薬剤師養成コース：定員40名）と薬科学科（4年制の研究者等養成コース：定員40名）の二学科に改組しました。6年制コースでは、共用試験による一定レベルの知識と技能が担保された上で、5年次に病院と薬局での5ヶ月以上の実務実習が行われます。その共用試験のための施設や設備そして講義室等の整備も、将来的に全ての研究室が移転する亥鼻キャンパスで順調に進められています。第二期棟の建設につきましては、残念ながら未だ見通しがありませんが、早期実現を目指し訴えているところです。

大学の法人化により運営費交付金（校費）は毎年削減され、薬学研究院の台所事情も厳しい状態です。その中の朗報は、平成20年度に約1億5千万円の特別な研究予算が認められたことです。これは「分子イメージング」に関するもので、5年計画です。薬学研究院では一丸となってこのプロジェクト研究を展開し、将来的には分子イメージングの研究拠点を形成しようという構想です。

小泉元首相による規制緩和の流れで、明らかな過当競争が予想されるのにも拘らず、多くの薬学部が新設されました。現実、既に入学生の確保に悩んでいる大学があります。このような中、平成20年度の千葉大学薬学部には、前期（60名定員）が556名（9.3倍）、後期（10名定員）が343名（34.3倍）と、極めて多く受験生が志願し、その倍率は全国でも突出しております。この会報がお手元に届く頃には、推薦入試（10名定員）も含む厳しい受験を乗り越えた優秀な新入生が期待に胸を膨らませて大学生活を送っていることとでしょう。彼らのためにも、我々教員は教育と研究に一層努力し、世の中に見える形でアピールしていきたいと考えております。

» 理事・副学長 就任挨拶

山本 恵司



本年4月に就任された斎藤康学長の任命により理事・副学長（企画担当）を務めることになりました。大学の使命は高等教育の実施、学問を通しての人間成長・人材育成、科学・技術研究による国際社会・人類の発展への貢献であります。しかし、時代背景、社会の要請、日々の社会文化の発展と独立して大学が存在してゆくことはできません。日本の国立大学の「今」を表す言葉は「法人化をはじめとする構造改革、実績評価と競争原理、大学院教育の構築、社会との連携・貢献、少子化による大学全入時代への対応、教育の質の保証、国際化」などです。千葉大学では教員の理事・副学長は4名おり、それぞれが企画・教育・研究・組織の分野を担当し、事務局長が総務担当理事として加わる理事5名体制となっています。

「千葉大学が社会の要請に応えて計画的に運営され、発展するためにどうしたら良いか考えて働いて下さい。」というミッション（使命）と理解しております。本年1月に教育再生会議の最終報告が示され多くの提言がなされていますが、その中で「新しい学問分野の創出、教育組織の再構築、国公私大の連携強化、国立大学の再編統合、投資の充実や経費の見直し」などは企画担当理事として真正面から取り組まねばならない課題と考えています。さらに、すでに法人化して4年が経過したことから第一期の中期目標・計画（6年間）への取りまとめ報告、及び次期中期目標（平成22年度から6年間）に基づく中期計画の作成を進めいかなければなりません。中期計画は大学経営の根幹と位置づけられておりこれが千葉大学が、21世紀の世界で今まで以上の存在感を發揮できるかにかかっていると言っても過言ではないでしょう。

正直硬いご挨拶は苦手な私ですが、今回はことさらに身の引き締まる思いで任に当たりたいと思っております。「犬も歩けば棒に当たる」には「物事を行う者は、時に禍にあう」の意味とは別の意味があるとのことです。良い経験をするつもりで、また自分を鍛えるためと考え「歩いて」とお考えいただき、ご支援ご協力いただきたく存じております。

## 充実した時間を過ごせたことに感謝しつつ

鈴木 和夫



国立の研究機関から千葉大学薬学部に移り、16年の月日が過ぎた。国立の研究所にはそれぞれの研究目的があり、mission-orientedの機関である。先を見据えたmissionとは何か、その目的の中で自分が興味を持ち続けることができるか、どのように能力を活かすことができるか考えつつ過ごした。千葉大学薬学部という教育・研究の場を与えて、何がmission-orientedであるのか、そして私は何をすべきか改めて考える機会を与えることとなった。

自分でも自覚していない学生一人一人の能力を導きだし、それを活かし続ける意力を持ち続けるためのきっかけ、あるいはスタートラインに立たせることができれば、と思いつつ今に至っている。そのためには私自身が興味を持って取り組んでいる姿を見せてることであり、その成果を見せてることであると考えてきた。

地球上に生命体が、そして人間が存在することの必然性とその役割を理解してはじめて地球環境と人間の関わりが理解できるのではないかとの観点から、衛生薬学、人の健康に関する講義を行って来た。学生から人間が存在することの意義を考えるきっかけを与えられたと共に得られた。地球の環境保全は人類の生存をかけた重要な課題としてますます緊急の課題となってくるであろうし、公害という地域の環境に加えて地球の環境が薬学にとっても重要になってくるであろう。また、薬学を学び、実践する人たちがその解決に先進的な役割を果たすと期待されている。

千葉大では生体と金属の関わりについて研究してきたが、この研究分野でも16年間に劇的な進歩そして変化が見られた。研究対象は有害あるいは過剰の金属類により誘導される金属結合蛋白質メタロチオネインの制御や生物学的役割に関する研究、銅の先天的代謝異常症であるウイルソン病の発症機構とそのキレート治療法、セレンの代謝と排泄機構、そしてヒ素の代謝機構と毒性発現機構など、多岐にわたったが、それぞれの分野で国際的に十分評価されたと思っており、それらに携わった学生たちもそれを実感しているはずと感じている。

私にとって充実した楽しい時間を過ごす場を与えていただいたことに感謝している。

## 新任教授挨拶

佐藤 信頼



千葉大学薬学部に新設されました臨床教育学研究室を平成19年8月より担当いたすことになりました。日本の薬学をリードする歴史ある本学部での大任ある職責と認識し身の引き締まる思いです。薬友会報の紙面をお借りいたしまして、皆様にご挨拶申し上げます。

臨床教育学研究室は、6年制に延長することに適応するために設立されました。千葉大学薬学部は6年制移行に伴い、学科が2つに分かれました。約半数の学生が従来の4年制+2年制の修士課程に所属し、残りの半数が6年制に所属いたします。前者は歴史ある千葉大学薬学部の創薬部分を担う形となり、薬学の基礎的研究を従来通りに遂行していく。薬剤師というより純粋に基礎研究・創薬に打ち込む優秀な人材を今まで以上に輩出することが期待されます。6年制は薬剤師教育が中心となります。将来の臨床薬学において教育・指導的立場に立てる人材を育成することを目標としています。一見両学科は独立しているようですが、千葉大学においては融合したものとなります。

6年制の薬剤師教育は急速な医療の高度化・多様化に対処しつつ、医療安全確保にも大きく貢献できる薬剤師を育てることが最大の目的です。教育の2本柱は従来の薬学の基礎教育と体験型実務実習です。従来の薬学の基礎教育は現在までの千葉大学の薬学教育で十二分に対応可能ですが、体験型実務実習およびその準備段階で必要となるOSCE（客観的臨床能力試験）およびCBT（Computer-Based Testing）などの新しい教育システムは現在構築が進行しておりますが、まだ完全とはいえません。これらのシステム構築と、これらのシステムを利用しつつ、最も重要な「医療に貢献し、患者さんのためになり、倫理観と使命感を携えた」薬剤師を育てる方法を研究・実践することの一翼を臨床教育学研究室が担います。臨床薬学に関する知識と基礎研究により培われた判断力と思考力を兼ね備えた人材の養成を目指し、理想を高く掲げ、地道に努力して行きたい所存でございます。今後とも、薬友会の皆様の御指導と御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 特集

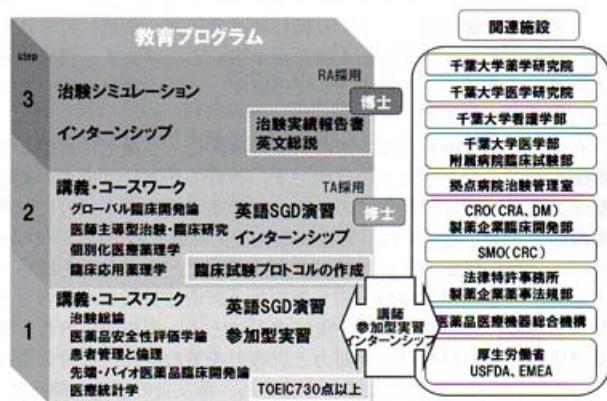
## 「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」プログラム採択実施

「大学院教育改革支援プログラム」は、社会の様々な分野で幅広く活躍する高度な人材を育成する大学院の優れた組織的・体系的な教育取組を重点的に支援し、大学院教育の実質化を推進することを目的として、平成19年度に文部科学省が設定した教育プログラムです。千葉大学大学院医学薬学府では「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」課題により応募（代表：山本恵司教授）し、極めて優れたプログラムであるとして平成19年9月に採択され実施することが決定しました。平成19年12月より細山沙織特任教員を迎え、参加大学院生約30名を得て本格的にプログラムが開始されました。文部科学省から支援される予算規模は19年度では実質で約4700万円であり、平成20、21年度と3年間継続される予定です。平成20年4月からは草間美嘉特任教員が赴任しました。

本プログラムへの全国の大学からの応募状況は総申請件数355件（医療系申請件数は62件）で、昨年6月～7月の書面審査による選定後、8月にヒアリング審査が実施され最終的に126件が採択（医療系では20件採択）と狹き門を突破しての成果といえます。本事業「世界規模の治験・臨床研究を担う医療人育成」プログラムは、医学薬学府において薬学系教員と医学系教員が協力して医学薬学府大学院学生（修士課程・博士課程）に対して先端的生命科学の成果と先進的医療の知識を基にして緊急を要する新薬臨床開発を担う人材の育成を図るもので

本プログラムでは、大学院教育の実質化を担保するため、これまで実験・研究中心の教育体制であったことによる大学院生の研究室配属体制を改め、講義履修、インターンシップ中心のコース設定を行い、産業界や行政などと協力して実践的でニーズに合ったカリキュラム編成を行います。（<http://www.p.chiba-u.ac.jp/gakufu/GP/>）これまでの大学院開設講義はお互いの講義の連携・関連性が取れないことがあるという欠点がありました。そこで、本コースを継続的・有効的に実施するために、医学薬学府に「治験・臨床研究コース」教員会議を設け、本学府の教員のみならず講義を担当する産・官の担当者にも参加して頂き、体系的な教育内容を形成し、受講者アンケートも参考にして定期的なブラッシュアップを図ります。治験が国際的に行われる実情から、外国人による英語での国際基準に見合った治験に関する講義を多様に設定することとし、受講者の語学力を担保するためTOEIC730点クリアを必須としています。開講科目的講師には学内外の医師、看護師、薬剤師やCRCおよびCRA経験者、厚生労働省・地方庁などの職員や外国人を招聘し実践的な講義、演習課目を開設します。インターンシップ、海外研修等により実践的能力を修得し、基礎知識は勿論、医薬品開発を担う応用技術を身につけバランスの取れた総合的企画推進能力を有する大学院育成を行います。受講大学院生には、TA・RAとして教育活動にも参加してもらい発表力、コミュニケーション力の充実を図ります。最終的には、修士課程においては治験実施計画作成能力、生物統計処理能力、治験管理能力およびデータマネージに必要な知識と技能を修得させ、博士課程においては医師、薬剤師共通して高い倫理観を有した治験実施マネジメント能力、コミュニケーションスキルに卓越した世界規模の治験・臨床研究を担う能力を修得した医療者集団の養成を目指すものです。

我が国は新薬を開発し人類の福祉に貢献できる数少ない国であり、政府の方針「イノベーション25」の中でも医薬品産業が一番の担い手となることが期待されています。文部科学省、厚生労働省は平成19年3月「新たな治験活性化5ヵ年計画」を発表し、医療機関の整備、人材の確保、国民への普及開発と参加の促進を柱とするイノベーションの推進を決定しました。本プログラムは、大学院での一環教育のもとに医療専門職として国際規模での医薬品の治験・臨床研究を担う人材を育成することを目的とするもので、将来の大学院のあり方を示すモデルとなることが期待されています。  
(山本 恵司)



## 小中動物用SPECT/CT装置を利用した学部内共同研究始まる

平成20年度千葉大学概算要求の研究推進として、薬学研究院から提案の「For SPECT新規標識プローブの開発による医薬イノベーションの創出」が採択となりました。本計画の初年度である今年の9月末には西千葉のアイソトープ実験施設に小中動物用SPECT/CT装置が全国の薬系大学として初めて設置される予定です。SPECTとはsingle photon emission computed tomographyの略で、日本語では「単一光子放射線コンピュータ断層撮像」と表現されます。 $\gamma$ 線を放出する極微量の薬剤をマウスなどの実験動物に投与してSPECT装置で体外から放射線を測定することで、動物が生きたまま薬剤の集積部位を1mm以下の高精度な断層画像として捉えることができます。SPECT/CT装置では、SPECT装置の他にX線CT装置も装着されており、薬剤の分布画像だけでなく身体のX線画像との融合画像も得られます。現在、機種選定の最中ですが、SPECT/CT装置の一例（図1）とマウスに標識抗体（ハーセプチ）投与後の全身（図2）、ドバミントランスポータとの高い結合親和性を有する標識薬剤を投与後の脳（図3）のSPECTとX線CTとの融合画像を示します。

がんを始めとする様々な病態で高い発現を示す生体分子あるいは標的とする組織の受容体、トランスポータ、酵素などと体内で特異的に結合する $\gamma$ 線放出薬剤（以下、標識プローブと略）を設計、合成できれば、SPECT/CT装置を利用して、生きた動物でのこれら病態関与生体分子の変化を連続的かつ非侵襲的に画像として捉えられます。その結果、病気に関する分子の可視化あるいは新薬の薬理作用の視覚化が可能となり、疾患の新たな診断法の開発あるいは新薬開発の迅速化や低コスト化に貢献できると期待されます。こうした研究領域は分子イメージングと呼ばれ、本邦でも陽電子放出核種を利用したPET（positron emission tomography）による研究が進められています。PETではサイクロトロンで產生される半減期の短い炭素-11（20分）やフッ素-18（110分）が利用できますが、SPECTでは、生体内に異物であるテクネチウム-99m、インジウム-111などの金属元素や放射性ヨウ素を $\gamma$ 線放出核種に利用するため標識プローブの開発には多くの研究領域の知見を集めが必要があり、PETに比べて研究が立ち遅れています。しかし、テクネチウム-99mを用いた脳血流や心筋血流の測定薬剤がすでに臨床において認可薬剤として医療に広く使用されています。また、写真3に示すように脳内のドバミントランスポータを描画するテクネチウム-99m標識薬剤も開発されています。さらに小中動物SPECTはPETに比べて画像の解像度が遙かに高く、SPECTに利用する放射性核種はサイクロトロンの設置が必要なく容易に入手できる大きな利点もあります。生体内半減期の長い抗体医薬品などの体内動態は、半減期の長い放射性核種の利用の可能なSPECTによってのみ可能です（写真2参照）。

SPECTを利用した分子イメージングの進展には、標識プローブの開発が大きな鍵を握ります。標識プローブの開発は医薬品の開発そのものであり、専門領域を異にする多くの研究者の協力により画期的に進展することが期待されます。本計画では、薬学研究院に所属する生物系、医療系、有機系そして物理系の研究室が密接な連携の下でいくつかのサブグループに分かれ、病態に密接に関与する分子の同定や特定の分子を標的とする標識プローブの新規開発を行う予定です。標識プローブの評価にはマウス、ラット、家兎を用いた実験の可能な小中動物用SPECT/CT装置を用います。そして、疾患の高度な診断薬剤の開発や新薬開発の効率化に有用な標識プローブの開発に薬学研究院が総力を挙げて取り組みます。また、今年1月に $\beta^-$ 線を放出するイットリウム-90標識抗CD20抗体がリンパ腫の治療薬剤として本邦でも認可を受けました。インジウム-111とイットリウム-90とは化学的性質が類似することから、インジウム-111の研究は、放射線を利用した有効で安全な新たな癌治療薬剤の開発にもつながると期待されます。本研究は薬学研究院内の研究室が中心となって行いますが、民間企業を含めた様々な研究施設との共同研究も推進したいと計画しています。本研究にご興味をお持ちの薬友会員の皆さまのご参画をお待ち申し上げます。（荒野 泰）



図1. Gamma Medica-Ideas社の  
小中動物用SPECT/CT装置



図2. インジウム-111標識  
ハーセプチを担癌マウスに  
投与して21時間後の全身  
SPECT/CT融合像。癌への高い  
集積と肝臓と心臓（血液プー  
ル）への集積が見られる。



図3. ドバミントランスポー  
タに親和性の高いテクネチ  
ウム-99m標識薬剤をマウ  
スに投与して8分後の脳内  
SPECT/CT融合画像。

# 研究室紹介

## 薬品合成化学



薬品合成化学研究室はその発端を1968年(昭和43年)に遡り、以来、日野亨先生、中川昌子先生が教授を歴任され、2001年(平成13年)より西田篤司教授の下研究活動を行っております。現在の研究室は西田篤司教授、荒井秀准教授、原田真至助教の3名のスタッフに加え、大学院生16名(博士課程4名、修士課程12名)、学部4年生3名の計22名で構成されています。

当研究室では大きく分けて、1) 新規合成反応開発のための基礎研究、2) 有用な薬理作用を示す天然物やその誘導体の全合成研究、そして3) 生理活性物質の誘導体化と活性評価 という3つの側面から研究を行っています。基礎反応開発においては、新たな反応を開発するためにPd(パラジウム)、Mo(モリブデン)などの遷移金属や、Yb(イッタルビウム)などの希土類金属を触媒として用いた反応の開発を行っています。天然物合成研究では、強い抗腫瘍活性や抗マラリア活性を持つマンザミンアルカロイド類や、抗悪性黒色腫作用を示すコブシアアルカロイド類の全合成研究を行っております。また生理活性物質の誘導体化研究では、スフィンゴリン脂質の誘導体合成と活性評価を行っており、さらにはそれらの化合物をプローブとして用いることで生理機能の解明へと展開しようと試みています。なお本誘導体化研究では本学部薬効薬理学研究室(村山俊彦教授)との共同研究体制を採っております、分野横断的な研究にも力を入れています。

化学合成は、自然界から僅かしか得られない化合物を必要量供給することを可能にするだけではなく、誘導体化することによって天然物よりも優れた薬理作用を持つ化合物を設計し生み出すことが可能となります。こうした利点を生かして、当研究室ではより良い医薬品の候補になり得る化合物を自分達の手で創り上げていく夢のある研究が続けられています。(原田 真至)

## 医薬品情報学



医薬品情報学研究室は、平成9年にスタートし今年で11年目を迎えることになりました。19年8月までは上田志朗(教授)、佐藤信範(准教授)、櫻田大也(助教)の3名のスタッフでしたが、佐藤信範(准教授)が臨床教育学研究室の教授に就任され、現在は2名のスタッフと、大学院生22名(博士後期課程8名、博士前期課程14名)、4年生5名、事務職員1名の計30名で構成される研究室です。本誌に掲載した集合写真は昨年の研究室旅行のひとコマで同窓生の赤ん坊を抱っこしております。新年度の慌しさも薄れ、お互いの気心も知れてくる5月に、同窓生も交えて楽しいひとときを過ごしました。

医薬品は疾病の治療、診断、予防を目的に患者さんに投与されるものです。医薬品を使用する際には、効能効果、用法用量、副作用や飲み合わせ、保存上の注意などの情報が必須であり、これらの情報を医薬品情報と呼びます。逆にいふと医薬品は情報が付随して初めて単なる物質から医薬品になるのです。医薬品の効果を最大に引き出し、副作用は最小限にとどめるという適性使用のための医薬品情報の充実が求められています。このような観点から、現在、当研究室では、臨床応用を意識した基礎実験による情報の創出(実験系)と、それらの情報を医療現場で活用するために情報の収集・評価・解析・加工・提供(情報系)の二つの側面から研究を進めています。特に、妊婦・授乳婦、小児、腎不全患者、がん患者等への薬物治療といった幅広い分野から、より効果的な使用方法についての情報の創出に取り組んでおります。このような研究活動を通じて、探究心と創造力を有した学生を育成することを使命しております。これからも、薬友会の皆様のご支援、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。  
(上田 志朗)

## 新制度薬学部生の初めての3年次進学振り分けについて

全国の薬学教育6年制の実施に伴い、本学部でも平成18年度入学生から薬学科（6年制）定員40名、薬科学科（4年制）定員40名の二学科制になりました。薬学科では薬剤師免許を取得して、病院や調剤薬局など臨床の最前線で活躍できる人材の育成を行い、薬科学科では修士課程での教育研究も経て、創薬基礎研究や医薬品開発などの研究開発分野で活躍できる人材を育てます。薬剤師国家試験の受験資格は原則として薬学科の卒業生に与えられます。本学部では入学時には80名の定員を一括して選抜を行い、3年次への進級時に本人の希望と1、2年次の専門教育科目的成績に基づいて両学科への振り分けを行います。これは、2年間の薬学基礎教育を経て両学科の特徴について良く理解して、自分の適性や将来の志望も明確にした上で進路決定することが、学生の将来にとってよりよいであろうという教育的な判断からでした。平成18年度入学生はこの新制度の最初の学年でした。このために、当該学年のクラス顧問が委員を務める学生配属委員会を中心に薬学部全教員が、アンケートを定期的に実施したり、授業の折や学生懇談会などにより積極的に進路指導や情報の提供に努めました。その結果、入学初期には両学科への志望にアンバランスがありましたたが、最終的には両学科に志望が均等化され、全員が志望どおりの進学振り分けが決定しました。これらのいわゆる6年制第一期生に対する継続した指導と、引き続き新2年次、1年次生に対する進学振り分けのための適切な指導や情報提供が必要だと思います。

（齊藤 和季）

## 「中小学生対象 夏休み薬草教室開催」

小中学生に薬草に親しんでもらうため、7月29日（日）に西千葉キャンパスの薬学部薬用植物園にて第10回夏休み薬草教室を、本学環境健康都市園芸フィールド科学教育研究センターの池上文雄教授とともに開催しました。夏休み薬草教室は、千葉大学公開講座の一環として実施しており、千葉市教育委員会の後援をいただいています。ここでは、山椒やセンブリなどの身近な薬草についての講義、薬用植物園内の植物の観察と採集、各自が採集した植物を用いた押し薬標本作成の講習と指導を行っており、今回は約45名の小中学生が参加しました。今年度も小中学生が夏休みに入った7月下旬に行う予定です。

（北島満里子）

## 萩庭標本データベース作成協力会

故萩庭丈寿名誉教授が遺された51840枚に及ぶ植物標本を整理してデータベース化する作業は1997年3月から始まり丁度10年でようやく終了しました。この活動に約60人の薬友会員がボランティアとして携わり、113の方から頂いた寄附金320万円が役立てられました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。私達が「萩庭標本」あるいは「萩庭コレクション」と呼ぶ標本の大部分は先生ご自身が採集して標本化したものですが他に約50の方たちの採集品も含まれています。薬友会報の15号で報告したように標本は2005年2月つくば市にある国立科学博物館（以下科博と略）植物研究部に寄贈されました。貴重な標本が千葉大学から離れたことは誠に残念ですが標本が永久に保管され、広く一般に利用されることを考えると適切な決定であります。標本の中のアカショウマ、クモマキンポウゲ、ヒダカラソウ、ヒメカラマツの4枚が隔壁遺存的植物として上野の科博日本館2階南翼に当分の間常設展示されています。これには“故萩庭丈寿博士採集標本”という印が捺されています。2002年以来データベースと標本の写真約4万枚がインターネットで公開されています（<http://sakuyou.p.chiba-u.jp/>）が、全標本のデータベースも近く科博が運営するサイエンスミュージアムネット（S-Net）<http://www.science-net.kahaku.go.jp/index.html>に組み込まれ、千葉大のサイトのデータベースも全標本のものに更新される予定です。

S-Netはデンマークに事務局があり世界67か国が加盟している地球規模生物多様性情報機構（GBIF）と連携しており、萩庭標本が世界中で調べられるようになり、遺伝子を含めた日本の植物資源としての利用も期待されます。萩庭標本データベース作成協力会は今年の役員会をもって解散することになります。

（33年卒 福原 正）

## Letters from Alumni

### クラス通信

#### 昭和16年3月卒業（一葉会）

医薬の廟府・亥鼻会の存続発展を望む！

今村、海老澤、海老根、大石、大山、木俣、小林、小宮、張、望月、山岸 11人の諸氏懸命に生存。亥鼻会（創設者 岩城謙太郎氏は小生の1年先輩）

在学中及びお互いに陸軍薬剤官時代、先輩は関東軍貨物廠、小生は朝鮮陸倉（貨物廠）に於いて軍需動員整備業務上親交があり当会（毎年春秋2回、正午会食後講師口演、日本橋クラブ、会費5000円）を楽しみに毎回（各クラス2-6人、40人前後）出席していた関係で、先輩の後任に委嘱。企画運営については16年12月卒業の有志、特に井上富夫氏（23年卒業）が実務一切を引き受けた会の存続に尽力されており感謝に堪えない。尚、学部制になって卒業された方々による亥鼻会の存続発展を切望しているのが、現会員の実情である。

（海老澤賛一郎）

#### 昭和16年12月卒業（宣葉会）

宣葉会の有志は元気いっぱい

●卒業の時は50名のつわもの達が、平成20年には11名になってしまいました。60余年の歳月が流れ、戦中と

戦後の荒波に生きぬいて来たのですが、寄る年なみとの戦いもきびしく、クラス会で顔を合わせ面々も数が少なくなりました。

昨年は、水本君、稻見君、林知夫君が他界し、途中休学の藤井君までも旅立たれて、寂しい限りです。

●幸いと元氣な仲間とは時折り連絡をとり、遠い三田君、巣山君、田中君をはじめ、国友君、海東君、古山君、君塚君、西口君なども旧交を温めています。

今年もクラス会を開きたいと思いますので、身体に気をつけてお元気でお会いしましょう。（安田 英夫）

#### 昭和17年9月卒業（翠葉会）

戦時に半年繰り上卒業した48名中、連絡のとれる存命者は17名になりました。

毎年クラス会を開催していますが、出席者はいつも同じ顔触れで、人数もだんだん少くなり淋しい限りです。

○昨年は6月13日 新宿東天紅にてクラス会開催

出席者 小幡・戸村・中村・新井の4名のみ  
近況や思い出を話し合い大変楽しい会でした。

欠席者の近況報告を見ると、殆どが加齢のため体調不良の様で老齢の為仕方ない事ですが、次回は6月開催の予定です。

（新井 定吉）

### 昭和20年卒業（るつぼ会）

前回と同じく、6月2日上野池之端鳴外荘であるつぼ会を開いた。ほとんど同じ顔ぶれの12名が集って、1年懐旧の情を語り合ったが、80歳を越えて定職を続いている者、悠々年金生活を送る者など、状況は様々であった。しかし一致して語り始めるのは健康状態の変化であり、この年令では当然やむをえぬことと思われる。とはいっても、最近の科学の進歩から開発されつつある万能細胞の利用などで、健康回復が話題になる時代を期待するのは、小生だけの夢だろうか。

この時点で名簿には28名乗っているが、確認24名、消息不明4名で、その後5月に金子芳太郎君が亡くなられたことが判り、確認は23名となっている。出席者は写真のように、前列左から坂本、川島、飯塚（俊）、山口、渡辺、後列西川、横田、佐川、本宮、中川、岡部、水橋の諸兄で、事情で不参加の連絡をいただいたのが4名あった。今年のるつぼ会も、同じ場所同じ時刻で開催が決定しているので、出席者の多いことを切に希望している。

（西川 文雄）



### 昭和22年卒業（臥豚会）

昨年は卒業60周年を記念して臥豚会は、卒後初めて千葉にて開催した。平成19年5月の正午、千葉駅に隣接の22階の“海燕亭”に10名が出席する。先ず逝去者の26名（卒業生55名）に対し黙祷を捧げる。次いで出席者の近況報告および欠席者14名と消息不明者5名につき情報交換する。欠席者の殆んどは療養中など体調が良くない者。（その後11月に尾内君は逝去）出席者のうち吉田君・大久保君は歩行が不自由であり、小林君は上田市、飯塚君は高崎市から出席する。

15時 私達の学んだ平屋校舎の跡地に新設された10階建て“医薬系総合研究棟”的セミナー室にて、山口教授より現況の説明を受けた後、山口教授・千葉教授の御案内により各自の研究室を見学する。改めて両教授および色々お世話を頂いた山本教授に深謝する。

今後とも級友間の連絡を密にし、元気な者の懇親の場を持ちたいと考える。

（中島 良郎）



### 昭和23年卒業

平成19年のクラス会は5月26日（土）に亥鼻の新学舎見学を兼ねて久しぶりに千葉で開催。新緑に映える研究棟6階に集合し、ご多忙の中をご案内頂いた堀江

薬学部長さんから「薬学部6年制発足の現況や、独立行政法人としての大学の今後について」の講話と研究棟を各階に亘り詳細なご説明を受け、我々の時代と雲泥の差、隔世の感を抱き研究棟を後にした。「堀江先生に改めて感謝申上げます。」懇親会は千葉の大塚君の世話で京成ホテルミラマーレの中国料理「景山」にて開催。出席者16名、新潟より高橋、長沢君が出席。又国立病院薬剤部長を歴任した豊田義雄君が春の叙勲で受賞。これを祝し乾杯。その後卒業60年になるH.20年の記念クラス会の開催場所、方法等の討議を含め2時間余楽しく歓談。「訃報」今回も元気な顔を見せた安井恒男君が11月に急逝された。「合掌」

「出席者」前列左より皆川、三浦、宮尾 中列左より中西、古川、豊田、植草、井上、大塚、岡田 後列左より小林、長沢、高橋、小沢、安井、島田

（三浦 清）



### 昭和15年卒業（二六会）

訃報です。電話で確認したところ、平成18年10月に武田信四郎君が逝去されていた。そして平成19年3月には山本功君が、7月には加賀谷洋蔵君が鬼籍に入られた。心から追福を祈ります。

これで10名になった。みな卒寿を越えられたが、年相応の運動と食生活で天地自然の摂理を仰ぎ、無理せずに漸進してゆこうよ！

（石丸 正美）

### 昭和28年卒業（千葉薬28会）

お陰様でこの5年程は欠ける者も無く、殆んどの者が喜寿を迎ましたが、元気に現職で、人々の健康に貢献している者も多く、平日の木曜日が、医師の休診日、同時に調剤薬局の休日と言う事で、昨年に続き、平成19年は5月10日（木）、恒例により有楽町のニュートウキョウにて開きました。交通の便がよく、出席者も処知ったこととて15名が集まり、4時間近く喧嘩譲譁、楽しい一日でした。

今年はカナダから桑原君が帰国するので、4月17日（木）恒例の会場に集合すべく案内状を近日発送する予定です。

（尾中喜代治）

### 昭和29年卒業

平成19年10月25日、昨年と同じ東京・丸の内ビルディング36階「福臨門酒屋」でクラス会を開催、皇居の緑を眺望しながら歓談しました。

出席者は、写真前列左から遠田健、吉積基之、今野一郎、後列左から比留間和夫、本多勝一、渡辺ともみ、比留間知子、早川元雅、光岡弘久、佐藤稔の10名。1年ぶりの再会にそれぞれ旧交を温め、近況を話し合いました。

平成20年のクラス会も同じように「福臨門酒屋」で、昼食会の予定としました。

訃報：平成19年9月に三部敏雄さんが他界されました。心からご冥福をお祈りいたします。(比留間和夫)



昭和30年卒業

平成7年からは、毎年3月10日を曜日に関係無く、私達昭和30年卒業生のクラス会と決めております。

その理由として、昭和20年3月10日の東京下町大空襲は、体験者にとって忘れ難い悲惨な思い出として脳裏に焼き付いています。

勿論クラス会メンバー全てが体験者でありませんが、喜多代兄の提案で3月10日の悲劇を、戦争の愚かさを風化させぬようにという思いで決定致しました。

キャビトル東急ホテルが、ここ10年間位の会場でしたが、2年前の秋から改修工事に入った為、現在は赤坂樓外樓飯店に変りました。

卒後53年、昨年は中村光一兄が急逝されました。ご冥福を祈ります。クラス会では互いの健康状態や近況を語らしながら、毎年3月10日には元気な顔で会えるよう頑張って行こうというのが我々一同の願いであります。(原田 直茂)

(原田 直茂)

昭和31年卒業（三一會）

千葉薬卒業後50年経ったがクラス会はまだ継続している。暦年とエイジングは増加傾向にあるが、精神年齢はそれほど増加していないようである。昨年のクラス会は東京八重洲で開催され元気な会員が全国から集まり積もる話がはずみ、二次会に後解散した。今年は東北への旅行が予定されているので、楽しい年になりそうだ。一度は新しい猪鼻の校舎を訪ねてみたい。

(星 昭夫)

昭和32年卒業 (32会)

昨年10月12日、二年振りに三重県鳥羽で地方クラス会を開催しました。地方例会はこれで5回目になります。少々遠方でしたが、10名の出席を得、久し振りにゆっくりと旧交を温めた次第です。その少し前、クラスメートの今関兄を病で喪ったばかりだけに、元気な諸兄の顔を見ることができたのは何より喜ばしいことでした。今関兄は三共製薬から目黒化工まで製剤畑一筋に勤め上げ、これから余生を楽しむ時期だっただけに残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りします。

(高橋 憲)



昭和34年卒業（亥鼻三四会）

卒業生47名のうち、連絡がつく人は33名。北は北海

道から南は沖縄まで、各地で活躍しています。昨年のクラス会は東京で行うことになり、11月16日、江戸川区の葛西臨海公園の中にあるホテルに17名が集い、旧交を温め、楽しいひと時を過ごしました。昼間、懇親ゴルフをやった人7人は、終了後駆けつけました。翌日は予定通りディズニーシー入園ということになり、11月も後半の土曜日とあって、クリスマスのイベントとも重なり、混雑を心配していたのですが、幸いいろいろなアトラクションやショーを堪能することが出来、まあまあ満足して帰路につきました。（関根 克己）



珊瑚会（昭35年卒）

秋紅葉真っ盛りの箱根に11月14日午後3時箱根登山鉄道宮ノ下駅に15名集合し、ホテルの迎合バスで宿泊施設“KKR宮下”“木賀温泉”に到着しました。温泉で疲れを癒した後、鬼籍に入られた佐藤陽一さんの冥福を祈った後、彼の色々な思い出話に時間の過ぎるのも忘れ楽しい一時を過ごしました。翌日は8名でボーラ美術館開館5周年を記念して行われた「モネと画家たちの旅」フランス風景画紀行展を鑑賞し、モネと印象派の画家たちの旅のすばらしい絵画に吸い込まれ、来年皆健康で再会することを誓い解散しました。

(前田 宏)

昭和36年卒業（三六会）

昨年のクラス会は11月16~18日に近江の名所旧跡を訪ねる小旅行を兼ねて行われました。コースの選定等に当っては、地元の大津に住む馬杉さんご夫妻に大変ご尽力頂きました。参加者は写真的11名です。

初日は築城400年記念の彦根城を見学。二日目は湖東三山と称される西明寺、金剛輪寺、百濟寺、それに石山寺。三日目は湖西にある日吉大社、比叡山延暦寺を参拝。

二日目の早朝訪れた西明寺は凜とした静寂さの中に本堂（国宝第1号指定）や三重塔が佇み、辺りに氣品が漂っています。続いて訪れた長い登り坂の金剛輪寺。登下坂する年輩の参拝者は皆「膝が」、「膝が」と嘆息しつつ行き交い、古稀を迎えた我身にも、その痛さが他人事ではありません。漸く辿り着いた本堂から紅葉を透かして見上げた三重塔は筆舌に尽くし難い美しさです。次の百濟寺も庭園が実に見事です。これら三山は自然に溶け込みながら、俗世、塵埃を離れ、孤高を貫く姿は清消しささえ感じさせるものでした。きっと、古には月下の門を敲く修行僧も數多くいたことでしょう。三日目は坂本にある日吉大社を経てケーブルで標高850m程の比叡山へ。山上駅では麓の行楽日和から一転して一気に冬の気候。薄着の筆者は寒さで身がすくみ、足が前に進みません。一行の皆さんに助けられ、何とか根本中堂を参拝、我国佛教諸宗派の宗祖を育んだ懐の深さ、威厳と規模の大きさは流石です。今しも信長に抵抗した僧兵達が林の中から躍り出てくるのではと、夢現の境地に…。

## Letters from Alumni

この星の観光に劣らず、宿（初日・彦根キャッスルホテル、二日目・ホテルビアザビワ湖）に戻ってからの夕食時のひと時も大変楽しく、極上のワインを飲むが如く、豊潤で甘い心持にさせてくれるものでした。お互いの近況や級友の無事を確かめ合い、夜遅くまで話が尽きず、今回もまた秋宵一刻値千金であったことは言うまでもありません。

(林 耕)

### 昭和37年卒業

平成19年度のクラス会は年10月21日（日）、前年度と同じJR有楽町駅の近くのニュートーキョーLa Stellaでの開催となりました。

出席者は16名でしたが、予定の3時間が短く感じられるくらい、和気あいあいと楽しく過ぎて行きました。

会の途中で星野氏がア・カペラで「千の風になって」を見事に歌い、観客（人数が少ないのが残念でした）を魅了しました。

次回は今年10月26日（日）同じ場所で開催の予定です。静養中の方は一日も早く健康を回復して、また今回仕事、旅行その他で都合のつかなかった方も次回は是非参加して下さい。

写真は当日撮影したものです。

(池田 守男)



### 昭和38年卒業（三葉会）

昨年のクラス会は地元の鍋島さんに尽力頂いて飛騨高山で二泊三日の日程で開催しました（21名出席）。初日は松本から貸切バスで松本城など経由して上高地散策のち高山へ。二日目は朝一見物の後白川郷巡り、飛騨古川の「飛騨古川まつり会館」や古い街並を見物してから高山に戻り、鍋島家の歴史ある茶舗の見学。翌日は「屋台会館」や「高山陣屋」など見学の後に料亭「洲さき」で宗和流本膳崩しの懐石を堪能してから帰途につきました。松本からの移動は貸切バスを利用しましたが、この位の人数ですとこの方が、時間も有効に使え、移動も楽でおまけに割安です。そこそこ歩けましたし皆さん元気そうですので、今後も貸切バスを利用していけるようお互いに健康に留意してまいりましょう。なお、生涯現役？の方も出席できるよう今年のクラス会は東京で日帰りの予定ですので皆さん是非ご出席してお顔を見せて下さい。

(鶴見 常夫)



### 昭和39年3月卒業

平成19年はクラス会を開催しなかったため、皆さんからの音信がありませんでした。久保氏が平成20年3

月26～28日に日本薬学会第128年会を組織委員長として横浜で主催されました。平成20年はクラス会を開催したいと思います。皆さん是非参加して下さい。

(五十嵐一衛)

### 昭和40年卒業（峠の会）

昨年の秋、鎌滝哲也氏（北海道大名誉教授）が紫綬褒章を受章しました。「毒物学・薬物代謝に関する研究に努めて優れた業績を上げた」ことが受章理由のようです。本年1月26日、ホテルオークラ東京にて、北大代謝分析講座と千葉大薬物学研究室の関係者が主な発起人となって「紫綬褒章受章記念祝賀会」が開催され、180～190名が参加しました。祝賀会は堅苦しさがなく大変なごやかな雰囲気の中で執り行われ、鎌滝氏の人となりと交友関係の広さにあらためて驚きました（「峠の会」からは荒木氏と平野が出席）。

今年は偶数の西暦で「峠の会」開催の年です。世話人は荒木・加藤両氏で5月に開かれる予定です。鎌滝氏の紫綬褒章受章が話題のひとつになるでしょう。一人でも多くの方々のご出席を期待します。

(平野 武明)

### 昭和41年卒（66会）

季節が変わっても、時の流れに身を任せつつ生きている20名が、昨年の6月2～3日に奥日光の散策にかけました（写真）。幸いなるかな晴天にも恵まれ、久しぶりで自然に対する畏敬の念を強く抱いた2日間でした。初日は湯の湖畔の1周散策、夜はいつもの宴会（著者はそれだけが楽しみなのですが？）、2日目は老いても血氣盛んな輩にお誘いを受け、重い腰を上げ小田代が原にハイキングへ行きました。途中、辛く感じた輩もいたようですが、全員完走（歩）でき、大きな勘違いですが、まだまだ若いとの共通認識におちいりました。次回は箱根への1泊旅行にするとのことで意見が一致し、別れを惜しみつつ、1年後の再会を約束し帰途につきました。最後に、こんな報告ができる薬友会の益々のご発展を祈念し、筆をおきます。

(小野 健司)



### 昭和42年卒業

平成19年11月18日に「卒後40年記念クラス会」を東京新橋の新橋亭にて開催。

3年前と同じく44名中27名出席（出席率61.4%）。今回は新人（？）が7名参加、40年ぶりの再会となり感激でした。

今回も遠くは沖縄から嘉数（旧姓吉元）さん、大阪から高岡（旧姓小田）さん、近くは栃木群馬から、又会社運営の重責を担う田村、野中、三原（旧姓山縣）の各氏も多忙の中参加。しかし石川牧師のアリガターアイ神の恩寵の垂訓、滝沢君の野菜談義が聞けなかったのが残念。今回からEメールを活用しました。利用者24名の多きに達し、早い・楽・正確・通信費の節約に

も役立っています。

近況を聞くに親の介護、近親のご不幸、体調の不調等悲しい話もありますが、それなりに工夫し乗り越えて人生を過ごしていらっしゃるのは頼もし。

「歳歳年人同じからず」自分の人生を楽しみましょう。  
(齊藤 弘)



#### 昭和44年卒業

平成19年11月3日に、3年ぶりのクラス会を新宿三井クラブにて開催しました。祝日の夜会ではありましたが、18名の参加で、楽しいひと時を過ごしました。

昨年には、クラス全員が還暦を越え、小説家、翻訳家、心理カウンセラー、大学講師、薬剤師など多彩な第二の人生を歩み始めています。同時に親の介護を担う年齢にもなり、すでに中川道子、森山和勇、久米圭代の三氏が逝ってしまいましたが、何はともあれ、仕事を続けられるのは、世のため、自分のためになり、幸せなことです。

年齢的に、身体にも心にもいろいろ不具合が出てきていますが、そんな時だからこそ、クラス会に集い、みんなで元気を振舞いあいました。あの千葉での青春時代が、熱くよみがえり、それを明日への力とする思いを抱いて、散会しました。「今度は旅行もいいね」とと言葉をかわしながら・・・

(清島 保江、松丸 明子、柿沢 英則)

#### 昭和47年卒業

平成19年10月27日、クラス会を5年ぶりに新橋の第一ホテル東京（ラウンジ21）で開催しました。当日は台風の影響で大雨にもかかわらず、同期の約半数の38名が出席しました。はじめに3名の級友（山口勝人さん、上田（谷口）典子さん、河野（神永）美智子さん）を偲んで、「千の風になって」を合唱し冥福を祈りました。宴会では、懐かしい顔ぶれで学生時代の思い出話や近況報告に花が咲き、2時間があつという間に過ぎてしまいました。その余韻を残しながらホテル2階のカフェバーで2次会をスタート。ほとんどの人が参加し、更なるお酒の勢いで団塊世代の熱き想いが滑らかに語られ2時間が瞬く間に過ぎ、再会を期しあけとなりました。次回クラス会は、今回の幹事（新間信夫さん、川島）に前田信也さんが加わり、企画したいと思います。そのときは是非ともご参加下さい。

(川島 恒男)

#### 昭和51年卒業

平成19年11月23日、前回のクラス会から2年ぶりに東京八重洲富士屋ホテルにてクラス会が開催され、北は栃木から南は兵庫までの24名が参集致しました。このところ2~3年に1度の開催が定例となっており、毎回20~30余名の参加者が集まります。当日は12時過ぎから飲み放題3時間の一次会、次いで場所を変えての2時間余りの二次会と、時の経つのも忘れて楽しい

ひとときを過ごすことができました。今回参加できなかった同期の皆様も、次回のクラス会には是非参加して、大いに飲みそして語り合いましょう。次回の幹事（大抜、木本、高橋）さん、2年後の手配はよろしくお願ひします。それからもう一つ、60歳前後となる次々回頃には泊まりがけのクラス会を計画しようとの声もでていたことをお伝えしておきます。

(栗原 敏夫)



#### 昭和55年卒業

2007年5月の同期会の様子を長坂さん、片山さん、北松さんの3名の方に紹介していただきます。「土曜日の昼下がり、首都圏のほか大阪、長野など全国各地から28名の方が東京丸の内に集合、中華料理を囲んで暫しのタイムとラベルを楽しんでいただきました。数年ぶりへん十年ぶりの再会で、卒業アルバムで予習をしてきて下さった方（笑）もありました。幸い容貌の激変した方も無く、すぐに昨日まで一緒にいたかのように話が弾むのですから、学生時代をともにした仲間というのはありがたいものです。卒業から28年、ひとつの学び舎から飛び立った種はそれぞれの場所で根を張り、枝を茂らせてきました。社会でも家庭でも責任の重い50代、数年後の次回の同窓会でまた元気な枝振りを見せていただきたいものです。」私は、子供の小学校の運動会と重なってしまい出席することができず残念でしたが、皆さんとても楽しい時間を過ごされた様子で、次回がとても楽しみです。（朝比奈真由美）



#### 平成19年卒業

先日学士論文と博士論文の発表会を終え、2008年2月、去りゆく先輩方との思い出も残すところ1ヶ月を切りました。4年生は国家試験勉強、修士の卒業生は論文製作、博士の卒業生はデータ整理に取り掛かっています。誰一人寂しさを押し出さず普段通りに振る舞うも、研究室には淡い寂寞感が漂っています。

私たち在学生（特に修士1年生）は、研究室の卒業生へ送る記念品の作成に取り掛かっております。今年度の内容はDVDです。研究、アルバイト、サークル等忙しい毎日を送る中、時間を調整して話し合う機会を作っています。数多とある写真や動画を一つのディスクにまとめるという作業は、普段行っている研究とは異なり、時として困難や衝突を招きます。しかし私たちは妥協せず一つの解を探しています。どのような作品に仕上がるのか楽しみであると同時に、作品の完成は卒業生との別れを意味すると思うと、やはり複雑な気持ちです。（今井 陽介）

## 支部だより

### ●東京支部

平成19年11月16日（金）日本橋俱楽部で、東京支部総会を開催した。40名程の出席があった。薬友会会長、堀江利治教授より、昨年より新しいシステムでの6年制の新入学生を受け入れ、活躍しているが、未だ新校舎の目途がついていないとの話があった。ついで、千葉大学環境健康フィールド科学センター（柏の葉キャンパス）池上文雄教授の「柏の葉の試み－新たな知の環を目指して－」と題して、植物を中心とした天然医薬資源の研究と柏の葉診療所の厳しい状況を話された。つくばエクスプレスの開通で柏の葉キャンパスは駅前となり、大変便利になったそうです。

講演後、恒例の懇親会で、和やかに情報交換で盛会裏に終了した。次回は平成21年11月呂を予定している。

（渡辺 楠）

## ゐのはな山岳会

平成19年の当会活動は月例山行として1月の高山不動・環八州見晴山（771m）に始まり、権現山（243m）・弘法大山（230m）、沼津アルプス・徳倉山（256m）、物語山（1,019m）、坂戸山（634m）、石垣山（262m）、尼が禿山（1,466m）、乗鞍岳（3,026m）、海谷駒ヶ岳（1,487m）、尾瀬・焼山（1,059m）〆めの奥多摩むかし道散策でした。その他は恒例になった2月のスキー合宿と5月の屋久島ツアーです。東京・名古屋・大阪から15名が参加し『月に35日雨が降る』と言われる様に、晴れに恵まれず、帰る間際に宮之浦岳（1,936m）登頂、翌日縄文杉（1,310m）に行く事（連日10時間超の強行軍）ができました。毎回の山行は平均年齢70才（？）でも、心身共にいつまでも若くいたい昔青年達の集りです。若い方の参加は大歓迎！

（佐藤 敏子）



## 亥鼻会

当会は旧制薬学専門部卒業で、故岩城謙太郎様の発案で、日本橋本町界隈に勤めていた方々の有志にお集まり頂き、年に春、秋の2回講演会を開催しております。昨年は29回、30回を開催しました。第29回は昨年4月17日に日本橋三越前でうなぎ料理を父上の代より営業されている老舗の伊勢定会長富田蓮衛門様より、うなぎの焼き方から栄養、丑の日の言われ等興味深いお話をいただきました。

また30回は10月19日に株式会社長岩城修様（岩城謙太郎様のご長男）より「クスリの話」の題で薬事法の改正で薬局以外でも買える薬とか最近の薬の講演をして頂きました。

次回31回は4月にアロマテラピーの題で昭和51年卒山本芳邦様に講演を頂く予定です。

（亥鼻会幹事 井上富夫）

## サークル紹介

### 千葉大学薬友会ゴルフ

薬友会の縦の繋がりを少しでも深めたいと、2004年に始めたゴルフ会も今年で5年になります。13名で発足したこの会は、皆さんの熱意により春秋2回の大会を一度の中断もなく続けております。会員数も幹事さんのご努力により26名と倍増しました。お仕事やご都合で欠席される方を除き、毎回15～16名が参加して親睦を深めています。昨年の新参加は北大より戻られた鎌滝哲也氏（S40年）。今年は五月女幸子さん（S40年）、勝浦公男氏（S44年）、鎌滝静代さん（S44年）が参加頂ける予定です。



〔H19年成績〕

◎第7回①村田寿②原口克介③高橋哲夫

◎第8回①池田守男②村田寿③三浦尚美

〔今年度予定〕

第9回4.18（金）、第10回10.3（金）

場所：磯子c.c. 奮ってご参加下さい。

『連絡先』原口克介氏（S38年）電話03-3720-7571

『写真』第8回参加者 H.19.10.5 磯子c.c.

（世話人：三浦 清）

### 薬学部茶道部

私たち薬学部茶道部は毎週金曜日に薬学部講堂の和室で茶道の先生の指導のもと表千家の茶道の稽古に励んでいます。

主な活動としては週1回の稽古の他に大学祭での茶会の開催、外部の茶会への参加などがあります。部員は大学に入るまで茶道は未経験という人が多いのですが、11月の大学祭までには一通り基本を覚え、茶会でお手前ができるくらいにまで上達します。また、外部の茶会では、普段の練習とは違う道具やお手前などを多く見ることができ、参加すると大変勉強になります。

部員は少数なのですが、その分先輩、後輩といった上下のつながりも強く、また全員薬学部の学生ということもあり、茶道のことだけでなく学部関連の話を聞くこともできます。全体的に穏やかで、大変雰囲気の良い部であると思います。



## 学部だより

### 2007年度 卒業生・修了生の進路

**学部卒業** 94名：進学73名（千葉大学72名、他大学1名）、病院・薬局（公務員含む）12名、企業3名（クラヤ三星堂など）、その他5名。

**修士修了** 103名：進学14名（千葉大学11名、他大学3名）、病院・薬局（公務員含む）21名、企業63名（アグレックス、旭化成ファーマ、イーピーエス、エーザイ、エスピー、AGCセイミケミカル、大塚化学、大塚製薬、オリエンバス、科研製薬、カゴメ、キリンファーマ、コーワー、興和、合同資源産業、サンスター、生化学工業、シミック、全薬工業、日本化薬、大正製薬、大鵬薬品、田辺三菱製薬、TBCグループ、中外製薬、トーアエイヨー、富山化学工業、長瀬産業、南山堂、ノボノルディスクファーマ、万有製薬、メルシャン、持田製薬、持田ヘルスケアなど）、その他5名（医薬品医療機器総合機構、日本食品分析センターなど）。

**博士修了** 21名：千葉大学大学院薬学研究院、お茶の水女子大、徳島文理大学香川薬学部、国立感染症研究所、塩野義製薬、大正製薬、中外製薬、北興化学、メルシャン、Max Planck Institute of Molecular Plant Physiologyなど。

**論文博士** 6名

### 2008年度 薬学部・大学院医学薬学府入学者

**学部入学** 83名（男33名、女50名）：推薦10名、前期61名、後期10名、帰国子女1名、国費外国人1名（出身県別：北海道1名、秋田1名、福島1名、茨城7名、群馬1名、埼玉8名、千葉18名、東京16名、神奈川13名、山梨3名、新潟1名、長野2名、愛知3名、岐阜1名、富山1名、大阪1名、山口1名、大分1名、沖縄1名）

**修士入学** 117名：総合薬品科学99名、医療薬学18名

**博士（薬学領域）入学** 17名：先進医療科学2名、創薬生命科学15名

## 受賞

### 学会賞

- 平成19年7月6日 平成19年度日本微量元素学会 学会賞（日本微量元素学会） 鈴木和夫（衛生化学）  
平成19年7月6日 平成19年度日本微量元素学会 奨励賞（日本微量元素学会） 小椋康光（衛生化学）  
平成19年11月6日 第4回日本核医学会研究奨励賞（日本核医学会） 上原知也（分子画像薬品学）  
平成20年2月4日 井上研究奨励賞（井上科学振興財团） 中西和嘉（薬品製造学）  
平成20年2月20日 有機合成化学協会研究企画賞（有機合成化学協会） 中西和嘉（薬品製造学）  
平成20年3月25日 平成20年度日本薬学会 奨励賞（日本薬学会） 根本哲宏（薬化学）

### 論文賞等

- 平成19年6月28日 平成18年度未踏ソフトウェア創造事業上期未踏ユース「天才プログラマ／スーパークリエータ」（独立行政法人情報処理推進機構） 藤 秀義（薬品物理化学）  
平成19年6月29日 第34回日本トキシコロジー学会学術年会 優秀研究発表賞（日本トキシコロジー学会） 設楽悦久（生物薬剤学）  
平成19年6月29日 第34回日本トキシコロジー学会学術年会 優秀研究発表賞（日本トキシコロジー学会） 小椋康光（衛生化学）  
平成19年8月4日 日本レトロウイルス研究会夏期セミナー2007 特別賞（日本レトロウイルス研究会） 藤 秀義（薬品物理化学）  
平成19年9月5日 Lectureship Award from Thailand (2nd International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia) 石橋正己（活性構造化学）  
平成19年9月14日 平成19年度日本生薬学会論文賞（日本生薬学会） 北島満里子（生体機能成分子）  
平成19年9月14日 平成19年度日本生薬学会論文賞（日本生薬学会） 中村智徳（高齢者薬剤学）  
平成19年9月22日 平成19年度日本潰瘍学会賞（日本潰瘍学会） 佐藤翔吾（薬効薬理学）  
平成19年9月25日 3rd Presentation Award (4th Japanese-Sino Symposium on Organic Chemistry for Young Scientists (日中有機化学若手会議)) 李 晓帆（活性構造化学）  
平成19年10月6日 第51回日本薬学会関東支部大会 優秀ポスター賞（日本薬学会関東支部会） 平井成和（高齢者薬剤学）  
平成19年10月6日 第51回日本薬学会関東支部大会 優秀発表賞（日本薬学会関東支部会） 佐藤和泉（分子細胞生物学）  
平成19年11月1日 フォーラム2007衛生薬学環境トキシコロジー学会 実行委員長賞（衛生薬学環境トキシコロジー学会） 那仁満都拉（衛生化学）  
平成19年11月30日 International Symposium on Metallomics Young Scientist Award (International Symposium on Metallomics) 那仁満都拉（衛生化学）  
平成19年11月30日 International Symposium on Metallomics 2007 Financial Support for Young Scientist (International Symposium on Metallomics) 北口 隆（衛生化学）

平成19年12月2日 第6回ファーマバイオフォーラム2007 優秀発表者賞(日本薬学会生物系薬学部会) 小幡裕希(分子細胞生物学)  
学内賞

- 平成19年11月7日 オープンリサーチ2007学長賞(千葉大学) 荒野 泰(分子画像薬品学)  
平成19年11月7日 オープンリサーチ2007学長賞(千葉大学) 石橋正己(活性構造化学)  
平成19年11月7日 オープンリサーチ2007学長賞(千葉大学) 小椋康光(衛生化学)  
平成20年3月25日 博士課程優秀修了者にかかる平成19年度千葉大学総長表彰(千葉大学) 大出裕高(薬品物理化学)

教員の異動 (2007.5.1~2008.4.30)

H19.6.1

- 熊本 卓哉(准教授) 升任(薬品製造学)  
吉本 尚子(助教) 採用  
(理化学研究所植物科学研究センター→遺伝子資源応用)

H19.8.1

- 佐藤 信範(教授) 升任(医薬品情報学→臨床教育)

H19.9.30

- 植村 武史(助教) 辞職(生体分析化学→米国アリゾナ大学へ留学)

H20.3.1

- 設楽 悅久(准教授) 升任(生物薬剤学)

H20.3.31

- 鈴木 和夫(教授) 定年退職(衛生化学)

- 豊田 英尚(准教授) 辞職(生体分析化学→立命館大学薬学部教授)

- 秋澤 宏行(講師) 辞職(分子画像薬品学→北海道医療大学准教授)

H20.4.1

- 山本 恵司 国立大学法人千葉大学理事  
(H20.4.1~H22.3.31)

- 石川 勉 大学院薬学研究院院長  
(H20.4.1~H22.3.31)

- 堀江 利治 大学院医学薬学府長  
(H20.4.1~H21.3.31)

- 齊藤 和季 評議員・大学院薬学研究院副研究院長  
(H20.4.1~H22.3.31)

- 小椋 康光(准教授) 配置換(衛生化学→生体分析化学)

- 上原 知也(講師) 升任(分子画像薬品学)

- 鈴木 紀行(助教) 配置換(衛生化学→分子画像薬品学)

- 佐藤 洋美(助教) 採用  
(千葉大学大学院医学薬学府創薬生命科学専攻→高齢者薬剤学)

- 鈴木 優章(助教) 採用  
(米国ペンシルバニア大学化学生物学博士研究員→薬品物理化学)

- 細山 沙織(助教) 採用  
(千葉大学大学院薬学研究院特任教員→生体分析化学)

2007年度 博士学位授与一覧

課程博士(甲号)

氏名	学位の種類	論文題目	授与年月日
渡邊むつみ	博士(薬学)	Reverse genetic study of cysteine biosynthetic genes in <i>Arabidopsis thaliana</i> (シロイヌナズナにおけるシステイン合成系遺伝子群の逆遺伝学的研究)	2008年3月25日
大出 裕高	博士(薬学)	コンピューター・シミュレーションによるHIV-1プロテアーゼ阻害薬耐性機構の解明	2008年3月25日
秦 利幸	博士(薬学)	マウス初期胚の発生・生存に関与する巨大核蛋白質KIAA1440/Ints1の機能解析	2008年3月25日
金 麗花	博士(薬学)	Studies on the structure of the channel pore of NMDA receptor and development of its channel blocker (NMDA受容体のチャネル構造解析並びにチャネルブロッカーの開発)	2008年3月25日
吉原 寛	博士(薬学)	MR教育におけるeラーニングの活用と有効性に関する研究	2008年3月25日
清水 雅也	博士(薬学)	細胞質型ホスホリバーゼA2 $\alpha$ の新規活性制御機構に関する研究	2008年3月25日
原 聰亮	博士(薬学)	構造異常アミノ酸を含む生理活性環状デプシペプチド類の全合成研究	2008年3月25日
梶山 篤司	博士(薬学)	無機塩添加によるヒプロメロースマトリックス錠の崩壊性改善	2008年3月25日
齋藤 宏暢	博士(薬学)	プロスタサイクリナーコロゲストロニクスの抗血栓材料への適用	2008年3月25日
首藤十太郎	博士(薬学)	In vivo assessment of oral administration of probucol nanoparticles in rats (ラット経口投与におけるナノ微粒子化プロブコールの評価)	2008年3月25日
富澤 崇	博士(薬学)	ゼオライトへの各種医薬品化合物の封入に関する研究	2008年3月25日
伊藤 文博	博士(薬学)	Synthetic studies on (+)-miroestrol and its related compounds ((+)-ミロエステロールとその関連化合物の不斉全合成研究)	2008年3月25日
重山 貴秀	博士(薬学)	Phlegmarine型新規リコポジウムアルカロイド類の不斉全合成研究	2008年3月25日
鈴木 健太	博士(薬学)	<i>Aspidosperma</i> 属インドールアルカロイドSubincanadine類の不斉全合成研究	2008年3月25日
松田 洋平	博士(薬学)	新規多量体型pyrrolidinoindolineアルカロイド類の全合成研究	2008年3月25日
花澤 修和	博士(薬学)	変形菌由来天然物melleumin AおよびBの立体化学の決定と全合成研究	2008年3月25日
細谷 孝博	博士(薬学)	ヘッジホッギングナル伝達経路を標的とした天然物の探索および変形菌の成分に関する研究	2008年3月25日
佐藤 洋美	博士(薬学)	コネキシン遺伝子の癌抑制機能の解析と治療への応用に関する研究	2008年3月25日

氏名	学位の種類	論文題目	授与年月日
那仁満都拉	博士(医薬学)	Arsenic metabolism and thioarsenicals (ヒ素代謝と含硫ヒ素化合物)	2008年3月25日
久家 貴寿	博士(医薬学)	Differential roles of Src-family kinase members in cell growth signaling (細胞増殖シグナリングにおけるSrc型キナーゼ分子種の特異性に関する研究)	2008年3月25日
平田 悟	博士(医薬学)	環境変化に依存したシグナル伝達機構の解析	2008年3月25日

#### 論文博士(乙号)

氏名	学位の種類	論文題目	授与年月日
萩原 里絵	博士(薬学)	有機アニオン系薬剤のトランスポーターを介した輸送機構と薬物相互作用	2007年9月28日
小原 厚行	博士(薬学)	タイプ1代謝型グルタミン酸受容体の機能解明と阻害薬探索に関する薬理学的研究	2008年3月25日
高城 徳子	博士(薬学)	リボキシゲナーゼのレドックススイッチングとその制御系の構築	2008年3月25日
水野 尚美	博士(薬学)	エダラボンおよびその抱合体の腎輸送メカニズムに関する研究	2008年3月25日
福田 守	博士(薬学)	経口固形製剤における加熱溶融型押出造粒技術の新しいアプローチ—難溶性薬物の溶解度改善と放出制御製剤への新規手法による適用—	2008年3月25日
生城山勝巳	博士(薬学)	薬物代謝酵素の遺伝子多型および薬物受容体発現量の変動に基づく医薬品適正使用に関する研究	2008年3月25日

## 薬友会より

薬友会のホームページURLです。隨時行使しております。  
ぜひご覧ください。

<http://www.p.chiba-u.ac.jp/yakuyukai.html>

#### 平成20-21年 主な活動予定

- 20年5月 会報18号発行
- 7月 役員会・総会および生涯教育セミナー
- 12月 役員会・常任理事会
- 21年5月 会報19号発行
- 7月 生涯教育セミナー
- 12月 役員会・常任理事会

#### 平成19年度 活動報告

- 3月 新入生入会案内(新規終身会員104名)
- 5月 会報17号発行
- 7月 第16回千葉大学薬友会生涯教育セミナー(宮城高明セミナー)開催(千葉大学けやき会館)  
「生体と微量成分」及び「プリオント病の謎と対策」(講師4名、参加者140名)
- 12月 役員会・常任理事会

#### お知らせ

- 本会活動のますますの活性化のため、会員の皆様に終身会員へのご加入とご寄付をお願いしております。
- 1) 終身会員:会費2万円、昭和48年に開設(現在約50%加入)会員名簿を更新のたびに無料にて配布致します。
- 2) 寄付:一口2千円から受け付けております。特に終身会員会費が1万円であった会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。
- 3) 会報、名簿等への広告掲載をご希望の方は薬友会までご連絡をお願い申し上げます。

上記いずれのお申し込みも<郵便振替口座0015-5-551796千葉大学薬友会>にお願い申し上げます。

#### 各種委員会名簿

- |              |   |
|--------------|---|
| <u>総務委員会</u> | ○戸井田敏彦、豊田英尚、細山沙織、村上泰興(S36)、荒野泰(前委員長:アドバイザー) |
| <u>財務委員会</u> | ○熊本卓哉、石川勉、中西和嘉、村上                           |

泰興(S36)、山崎真巳(前委員長:アドバイザー)

名簿委員会 ○荒野泰、秋澤宏行、上原知也、村上泰興(S36)、根矢三郎(前委員長:アドバイザー)

事業委員会 ○山本友子、高屋明子、大川幸子(S32)、小川通孝(S34)、西田篤司(前委員長:アドバイザー)

会報委員会 ○石橋正己、荒井緑、木暮紀行、小林弘、齊藤浩美、深町利彦、小川通孝(S34)、加藤文男(S47)、角田範子(S52)、高山廣光(前委員長:アドバイザー)  
(O印:委員長)

#### 薬友会新名簿についてのお詫び

平成20年1月に刊行しました千葉大学薬友会会員名簿(2007)に重大な誤りが見つかりました。平成12、14、15年度の3月卒業生名簿に卒業生以外の名前が記載されています。この原因は、名簿刊行における依頼業者の変更と名簿委員会による原稿チェックの不備が重なったためです。名簿修正を千葉大学薬友会ホームページに掲載いたしますので、ご覧いただければ幸甚に存じます。名簿委員会は今回の事態を重く受け止め、薬友会名簿の管理・編集には一層の努力をする所存でございます。薬友会員様および関係者様に大変ご迷惑をおかけしたことをお詫び申しあげます。

根矢三郎(平成18、19年度 薬友会名簿委員長)

#### 千葉大学SEEDS基金について

このたび千葉大学SEEDS基金が創設されました。本基金(=無限の生命力を象徴する種子)はチャレンジを支え、人を育てる基金として、優秀な学生への教育・研究生活にかかる経済的支援などに活用されます。皆様からのあたたかいご支援をお待ちしています。詳しくはホームページ(<http://kikin-chiba-u.jp/>)をご覧ください。

## 第17回 千葉大学大学院薬学研究院・薬友会生涯教育セミナー（宮木高明セミナー）開催のお知らせ

日 時 平成20年7月5日（土）13：00～17：00  
会 場 千葉大学 大学ホールけやき会館（1階大ホール）  
(〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33)  
主 催 千葉大学大学院薬学研究院・千葉大学薬友会  
共 催 日本薬剤師研修センター  
(参加者には日本薬剤師研修センターより3単位が認定されます。)  
後 援 猪之鼻獎学会  
テ マ 「感染症との闘い続く」



- 13：00～15：40 1) 抗菌薬開発の現場から：日本発キノロン系抗菌薬～菌の耐性化は続く  
星野 一樹 先生（第一三共株 生物医学第四研究所 主任研究員）  
2) 身近にある性感染症：エイズ（HIV）と子宮頸部癌（パピローマウイルス）  
佐藤 武幸 先生（千葉大学医学部附属病院 感染症管理治療部長）  
3) ヒトと動物に共通する感染症：高病原性鳥インフルエンザを中心に  
関崎 勉 先生（動物衛生研究所 細菌・寄生虫病研究チーム長）

### 16：00～17：00 4) 宮木高明記念セミナー

細菌感染研究の最前線：赤痢菌の粘膜感染と宿主応答  
笹川 千尋 先生（東京大学医科学研究所 教授）

懇親会 17：10～18：30 けやき会館内 レストラン コルザ

セミナー参加費 1,500円（事前予約） 2,000円（当日）

懇親会参加費 2,500円（事前予約） 3,000円（当日）

参加予約の方法 同封の申込書に、参加者氏名、住所、卒業年次、職業をご記入の上、下記郵便振替口座に参加費をお振り込みください。[事前予約締切：平成20年6月27日（金）]

振込先：郵便振替口座00150-5-551796千葉大学薬友会

本セミナーに関するご質問などは薬学研究院（微生物薬品化学研究室）山本友子までお願ひいたします。

（電話：043-290-2928 E-mail:tomoko-y@p.chiba-u.ac.jp）

千葉大学校友会総会のご案内  
平成20年度校友会総会は平成20年9月27日（土）、けやき会館で開催されます。開催時間等の詳細は千葉大学ホームページに掲載予定です。

※生涯セミナーへのご招待：本年度は薬学部卒業後35年の1973年（昭和48年）3月、卒業後45年の1963年（昭和38年）3月に卒業された方々をご招待いたします。該当されます皆様は、当日受付にお申し出ください。  
※西千葉キャンパス見学のご案内：卒業生と一緒に参加される小・中・高校生及び大学生については参加費無料といたします。又ご希望があれば、西千葉キャンパスをご案内いたしますので、事前にお申し込みください。

### 編集後記

#### 薬剤師教育6年制と同窓会

健康志向第一の人々が多くなり、医学・医療の進歩が進む現代の要望に応えたものが薬剤師6年制と言える。この制度は良い医療を進める上で役に立つ質の高い薬剤師を養成するという高い理念に立ち、薬学部において革命的な教育が実施されつつある。これは薬剤師自身の長年の夢の実現で喜ばしいことである。しかし、6年制の新薬剤師が世に出る前に、旧制4年生の薬剤師が全国で約27万人存在して、この方々もそれぞれ質の向上に務め、国民の健康増進に役立つべく努力している。同窓会としてこの方々の力になる方策も考えたい。

（小川 通孝）

#### 18号会報編集委員

石橋正己（委員長）、荒井 緑、木暮紀行、小林 弘、斎藤浩美、深町利彦、小川通孝（S34）、  
加藤文男（S47）、角田範子（S52）、高山廣光（前委員長：アドバイザー）